

コロンビアの対人地雷除去と実施体制・能力の強化に貢献

「国際協力のインテグレーター」として三角協力を推進

半世紀以上に及ぶ反政府ゲリラとの紛争に終止符を打ち、和平合意に至った南米、コロンビア。残された課題は、広範囲に埋設された“負の遺産”、対人地雷の除去だ。その体制と能力の強化を目指した無償資金協力「経済社会開発計画」の調達代理業務を担い、その効果的な実施に貢献した(一財)日本国際協力システム(JICS)の取り組みを追った。



コロンビア地雷除去チームに対する研修

被害者は1万1,000人超

コロンビア政府と反政府ゲリラ組織、コロンビア革命軍(FARC)との間で和平合意に至ったのは2016年のこと。実に半世紀以上にわたる紛争に終止符が打たれた。ただ、紛争の“負の遺産”とも言える対人地雷は国内各地のほぼ全ての県に埋設されており、被害者はコロンビア陸軍兵士や一般住民など1万1,000人を超えるという。平和と安定の時が訪れたとはいえ、埋設地周辺の住民が地雷の恐怖から解放される道のりは、まだまだ遠い状況だ。

今回の無償資金協力「経済社会開発計画」は、コロンビア政府の対人地雷除去に向けた取り組みを支援するため、ハード（地雷除去機の調達）、ソフト（人材育成）



業務第一部地域第二課
渡辺 仁一氏

の両面を視野に入れ、同国の地雷除去体制と能力の強化を目指したものである。交換公文(E/N)が締

結されたのは2017年6月28日。供与額は10億円。調達代理業務を担ったのが過去、カンボジアやアフガニスタンの地雷対策支援で貢献したJICSである。現地の地雷埋設地帯はどのような状況だったのか。現地調査に当たったJICS地域第二課の渡辺仁一氏は、これまでとは違う状況を指摘する。

「植生的に灌木が生い茂り、かなり急勾配のエリアもあることから、機材の使用条件は複雑だった。JICSが経験したことのない形状の土地に“手製”の地雷が仕掛けられているなど、コロンビアの特異性が感じられた」と渡辺氏は話す。手製の地雷の一例を上げると、空き缶に爆薬と大量の釘を詰め、巧みに張り巡らされたピアノ線に引っかかると缶が爆発、釘が飛散するもので、人体に重大な傷を負わせる。ピアノ線は人間の足元の高さ、時には背丈を超える高さに仕掛けられ、生い茂った枝から手製の地雷がぶら下がっている箇所もあったという。

生きた経験と知見

JICSによる集中的、かつ効率

的な現地調査の結果、埋設地帯の地理条件などに適合する除去機材がある程度絞り込まれ、操作などに関するトレーニングについては、地雷対策や不発弾除去支援でJICSと関係が深いカンボジア地雷対策センター(CMAC)、ラオス不発弾処理プログラム(UXOラオ)に協力を依頼。操作訓練など技術支援体制を整備していった。JICSの経験と知見、さらに業務を通して培ったネットワークが大いに奏功し、事業の迅速かつ効果的な実施につながっていたと言える。

今回調達されたのは、日本の中小企業(株式会社日建)が開発した地雷除去機8台。このうち1台は急峻な山間部での活動にも耐える2トンクラスの小型機で、「ヘリコプターで山間部への空輸も可能」(渡辺氏)とのことだ。また、地雷除去機の維持管理用工具を格納する移動式コンテナなども調達されている。日建が開発した地雷除去機の特徴は、小回りで機動性に優れるほか、バランスを崩しても自力で立ち直ることができ、傾斜のある灌木地帯や急峻な山間部



2019年11月19日、現地で執り行われた引渡し式の模様



調達された地雷除去機

でも操作性は高い。また、ガラスなど運転席周りが強化されており、手製地雷のピアノ線に対してもアタッチメントで直に線を引っ掛け、爆発・除去することも可能である。

一方、ソフトコンポーネントによる技術トレーニングの対象は、コロンビア陸軍と国防省の職員からなる「コロンビア人道的地雷除去チーム」の17人である。渡辺氏によると、まず除去活動のマネージメントにあたる管理者クラスを先行させる形で研修を実施し、その後、彼らが地雷除去機の実操作・運転要員らを選抜。カンボジア、ラオス、日本での技術訓練を受けるという二段階方式で実施された。

訓練メニューはJICSとカンボジアのCMACが策定し、その内容を一度コロンビア側に提示。さらに協議を重ねて見直すべきところを抽出するなど、プロセス管理とロジ調整で大変苦労した（JICS地域第三課・新宮貴子氏）という。ただ、これまでの協力で培ったJICSとCMAC、UXOラオのネットワーク、実践的に地雷除去機の実操作や維持管理方法な

どの訓練にあたった日建の全面協力もあり、密度の高いトレーニングが行われた。かつて日本が支援したカンボジアとラオスが手を携え、その経験を南米のコロンビアに伝える取り組みは、高度な三角協力の雛形として記録しておくべきだろう。

評価される提案・実施能力

プロジェクトの進捗を整理しておく、地雷除去機8台の納入が完了したのは2019年7月、カンボジア、ラオス、さらに日建でのトレーニング終了は同11月初旬。その後、11月19日、コロンビアのイバン・ドゥケ・マルケス大統領、森下敬一郎在コロンビア日本国大使ら列席のもと、引渡し式が地雷撤去完了式典と併せ、ウイラ県ピタリートで執り行われた。

ドゥケ大統領は式典で、コロンビアの地雷除去活動の加速化に資する日本から調達された地雷除去機と、人材育成に効果を上げたトレーニングの実施に謝意を述べ、2025年を目標に完全除去したいと決意を語った。また、式典に参加した住民が、地雷への恐怖から

住み慣れた土地を捨てざるを得なかった自分たちが、地雷除去を終えた故郷に再び戻れた喜びと感謝を口々に述べ、参列したJICSの竹内和樹業務執行理事は改めて本案件の意義を深く感じたという。

さて、今回の無償資金協力で象徴的なのは「国際協力のインテグレーター」を目指すJICSの役割・機能が遺憾なく発揮されていることだ。これまで培った地雷除去案件の経験・知見を生かし、現場ニーズを的確に把握した上で適正な機材を選定。政府開発援助（ODA）による地雷・不発弾処理案件で形成した強固な人脈を活用し、CMACとUXOラオ、さらに日本の中小企業をつなぎ、機材調達に加え、地雷除去機の実操作・維持管理訓練などのソフトコンポーネントを提案、実施したことは高く評価されよう。

国際協力のインテグレーターとしての経験と機能は、おそらく他分野の案件形成と効果的实施に向けて大きく結実していくはずだ。

* 調達代理機関:被援助国政府との契約に基づき、被援助国政府の代理人として入札手続き、売買契約、進捗管理、支払いなど一連の調達手続きを実施する機関。